

2 「戦後世界」のもう一つの区分

(2) 「戦後世界」の新区分～年号の下1桁9に着目して～

②1959年～「雪どけ」もそろそろ終わりの頃

◇ 1月：1キューバ革命(⇒61年5月，社会主義国宣言)

◆ キューバでは親米の2バティスタ政権への反発が強まり，3カストロは59年にこの政府を打倒(キューバ革命)。彼は首相となり，米系企業など大企業を国有化し，土地改革をすすめて小作人に土地を分配した。このため米との対立が深まり，61年には社会主義を宣言してソ連寄りの姿勢を示した。

キューバ革命後の62年には，ソ連がキューバにミサイルを配備したことから，米・ソの関係が悪化した。これを4キューバ危機という。このとき，米の5ケネディ大統領が，強い姿勢でソ連の6フルシチョフにミサイルの撤去をせまり，海上封鎖で対抗した。米・ソの対立によって世界は核戦争の危機に直面したが，ソ連がミサイルを引きあげたので直接衝突にはいたらなかった。これを機に，米ソ両国は歩み寄り，平和共存の話し合いを重視するようになった。また，63年には，米・ソ連・英が7地下をのぞく核実験禁止条約(8部分的核実験禁止条約)を結んだ。

→ 教 387・388



◇ 3月：チベット反乱

⇒ 8月・10月 中印国境で衝突

⇒ 1962 中印国境紛争

◆ 辛亥革命後，清朝の藩部※1だったチベットは仏教王国として独立。英は露の南下を防ぐためチベットと協定を結び，英領インドとの国境線を画定した。

※1. 清朝の新たな征服地。統治にあたっては，現地の伝統的文化の維持，現地首長を通じた政治などの懐柔策を採用。

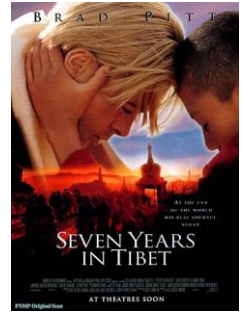
インド独立(1947)によって英の影響が及ばなくなると，建国間もない中国は中国人民解放軍を侵攻させた(1950)。この過程で，多くの寺院が焼かれ，貴重な文化財が「封建制の遺物」として破壊された。

59年3月，9ダライ＝ラマ 14世を擁し，僧侶や貴族が中心となって，チベット人は中国支配に対して反乱を起こした。しかし駐屯する中国人民解放軍によって反乱は鎮圧され，ダライ＝ラマ 14世はインドに亡命，それを追うようにして約10万のチベット人が続いた。ダライ＝ラマ 14



世はインドに亡命政権を樹立し、チベットの独立を宣言した。

インドの初代首相 [10]ネルーはダライ=ラマ 14 世支持を表明し中国を非難、一方、毛沢東はダライ=ラマ 14 世の引き渡しとチベット・インド国境の変更を要求した。62 年、両者の国境線をめぐる対立に再び火がつき、中印国境紛争が勃発。中国は、英とチベットが結んだ国境ラインを越えて侵攻した。インド軍は装備に劣り、中国軍に敗北したため、ダライ=ラマ 14 世はチベットに帰ることができなくなり、現在も亡命を続けている。→



教 390

着目：54 年に行われた、中国の [11]周恩来とインドの [12]ネルーの会談は、本来**チベット問題**を協議するためのものであった。しかし結果的には、周恩来とネルーは、中国・インド両国だけではなく、冷戦下の世界に広く適用されるべき原則とするため、**領土保全及び主権の相互不干渉・相互不侵略・内政不干渉・平等互惠・平和的共存**の [13]平和五原則を、共同声明として発表した。が、先述した通りダライ=ラマ 14 世をインドが保護したことからネルーの首相在任中に、中印国境紛争が起こった。ネルーはこのとき、米の支援を要請したので、**非同盟主義**の旗印も色あせてしまった。→ 教 384

◇ 4 月：中国国家主席に [14]劉少奇を選出、毛沢東は**党主席**に専念

◆ 中国は、1950 年代前半に戦前の農工業生産額をこえたが、やがて強引な工業化・農業集団化政策や共産党支配への批判があらわれた。毛沢東は批判勢力に反撃し、急激な社会主義建設をめざす「[15]大躍進」※2 運動を指示して、農村での [16]人民公社設立をすすめた。しかし、性急な大規模集団化や専門技術の軽視の結果、農業生産は急減した。農村では「食料増産に成功」という報告に無理矢理あわせるために、農民から食料を没収して国庫に納めさせた。その結果、膨大な餓死者が発生し、不満の矛先は毛沢東に向かった。59 年には毛沢東にかわって劉少奇が国家主席となり、経済計画を見直した。

※ 2. 1958 年からの**第 2 次五カ年計画**。その背景には、**中ソ対立**の開始に伴うソ連技術者の引揚げにより、重工業化を自力で進めなければならないことがあった。工業では鉄鋼業生産が特徴的であったが、品質は軽視され、もっぱら増産のみが強調された。中国全土は異常な食糧難に陥り、多くの餓死者を出した。毛沢東は責任をとる形で国家主席の地位は退いたが、党主席には居座り続け、次第に権力奪回の機会をうかがう。その権力奪回の手段、毛沢東の復権運動が、文化運動に名を借りた [17]プロレタリア文化大革命 (1966～77) であった。

→ 教 390

◇ 9 月：ソ連の [18]フルシチョフ首相が中国の北京を訪問。毛沢東と会談するが共同声明は出されず、**中ソ対立表面化**。

参考：この年、日本では？

◇ 7 月：熊本大学医学部水俣病研究班が**水俣病**の原因物質は有機水銀であると公表

◇ 9 月：**伊勢湾台風**，明治以後最大の台風被害をもたらす

③1969 年～「多極化」時代の真っ只中，米ソ両超大国の相対的地位の低下と第三勢力の台頭

◇ 1 月：**19** **ニクソン**，第 37 代米大統領就任（～1974 年 8 月）

⇒ 7 月：米の有人宇宙船**アポロ 11 号**が月面着陸

◆ 米（第 36 代 **20** **ジョンソン** 大統領）は 65 年から北ベトナムを爆撃（**北爆**）した。それ以降，**ベトナム戦争**が長期化していく中，米経済の行き詰まりが深刻になっていった。**ベトナム反戦運動**が激化し，68 年**キング牧師の暗殺**，民主党ロバート＝ケネディ候補の暗殺という混乱の中で大統領選挙が行われた。このような状況の中，ベトナム戦争の早期解決を公約の一つに掲げて大統領に当選したのが**ニクソン**であった。69 年の**ニクソン**大統領就任後，7 月にアポロ 11 号の月面着陸が成功して，米の威信は回復されたかに見えたが，米経済は金の流出が止まらず，密かに崩壊に向かっていった。

米は，ベトナム戦争中から国際収支※3が悪化し，1971 年，**ニクソン**大統領は**金とドルの交換停止を宣言**して世界に衝撃をあたえた（「**21** **ドル＝ショック**」）。戦後続いてきたドルを中心にした国際通貨制度は**変動相場制**にかわり，世界経済の実際の動向によって通貨の交換レートが変化するようになった※4。→ 教 391・392

※3．外国との経済取引によって生じた一国の収入と支出を，一定期間ごとにまとめたもの。そのうち最も代表的な項目が，ものとサービスの取り引きの収支である「貿易・サービス収支」である。

※4．「**ドル＝ショック**」によって崩壊した通貨体制を **22** **ブレトンウッズ** 体制という。その通貨体制は，米と欧州の大国が主導して，1944 年に発足した通貨体制で，金との交換が保証された米ドルを基軸として，各国の通貨の価値を決める**固定相場制度**であった。→ 教 372

◇ 3 月：**中ソ国境紛争**

◆ 1953 年ソ連の **23** **スターリン** が死去，56 年 **24** **フルシチョフ** が **25** **ソ連共産党第 20 回** 大会で**スターリン**批判を行い，アメリカ敵視政策を改め，**平和共存政策**を打ち出した。

49 年に建国し，50 年から始まった **26** **朝鮮戦争**（～53）で米と戦った中華人民共和国は，ソ連を「裏切り者」と呼んで非難した。中国は，ソ連の転換を資本主義へ近づくものと批判し，ソ連も中国の姿勢を非難したので，中ソ論争・中ソ対立が深刻になっていった。その後の中国の国内情勢や中ソ関係については上記〔②1959 年〕で述べた通りである。ソ連は，60 年に中国から技術者を引きあげ，経済援助も停止し，69 年には中ソ国境で武力衝突がおこる事態になった※5。こうして，ソ連を中心にした社会主義陣営の結束はくずれ，国際政治は多極化の方向に向かうことになった。→ 教 383・379

※5. 中ソ対立が深まるなかで、69年中ソ国境のウスリー川にある**ダマンスキー島**(中国名: **珍宝島**)で両軍の武力衝突がおこった。

◇4月: **27** **ド・ゴール**※6, 仏大統領辞任(1958 首相, 1958~1969 大統領)

◆1950年代後半からは北アフリカや内陸アフリカ諸国の独立があいついだ。**チュニジア**(56)・**モロッコ**(56)が比較的はやく独立を達成し,**28** **アルジェリア**は独立をめぐって仏と激しくたたかい、1962年になって独立した。このとき仏では、**アルジェリア**独立をめぐって**29** **第四共和**政が倒れ、**ド=ゴール**が59年に大統領となり、**30** **第五共和**政をはじめた。彼は**アルジェリア**の独立を認め、**独自に核兵器を開発**させた。また、**中華人民共和国の承認**や、**31** **NATO**の軍事機構からの脱退など、米と距離をおく独自の外交をおこなった。



※6. 軍人出身。第二次世界大戦中にロンドンで「自由フラン

ス」政府を指導し、大戦後には臨時政府首班となるが、議会の権限の強い**第四共和**政憲法に反対して下野。**アルジェリア**戦争によって政治が混乱すると1958年首相に就任し、大統領権限を強化した**第五共和**政憲法を制定して59

年に初代大統領となった。「フランスの栄光」をかかげ、米に追随しない自主外交をめざして米・ソの核独占に反対し、66年には**NATO**の軍事機構からの脱退を通告した。

権力が長期化する中で、経済成長は続いたが格差の拡大や若者の疎外感が深まり、68年5月のいわゆる**五月危機**という学生、労働者の反体制運動が激化しその権威が揺らいだ※7。一旦は乗り切った**ド=ゴール**は国民に信任を問う意味で、地方制度の改革と上院改革を内容とする憲法改正を提案し、国民投票にかけることとした。危機にあつては強い指導者**ド=ゴール**を支持した国民であったが、政治の新しい展開には80歳近い老人に見切りを付けていた。

69年4月に実施された国民投票は**ド=ゴール**提案は反対52%で否決された。国民投票で信任を問うという**ド=ゴール**政治の敗北であり、「英雄の時代」は終わったと言える。**ド=ゴール**は直ちに辞任を表明し、辞職後18ヶ月経たない70年11月に死去した。→ 教383

※7. 1968年、アイルランドの芸術家がチェゲバラの肖像画を制作し、仏の学生運動「五月危機」で反体制のシンボルとなった。

参考: この年、日本では？

◇6月: **日本の GNP(国民総生産)が西独を抜いて世界第2位**となった事を経済企画庁が発表

◇11月: **佐藤栄作**首相が訪米。3年後の**32** **沖縄返還合意**を取り付ける。

⇒1972年 **沖縄返還**→ 教392